吹田市市民協働学習センター主催

市民公益活動を活発にするために

～ 活動に新しい光を当てる～

日程：2014年10月4日
会場：千里ニュータウンプラザ

大阪ボランティア協会　事務局主幹
岡村こず恵
（okamura@osakavol.org）

社会福祉法人
大阪ボランティア協会

岡村こず恵の自己紹介

○京都市出身。まちづくり活動から市民活動推進の世界に入る。

○日々、さまざまなマイノリティの声が寄せられるボランティアセンターのコーディネーターとして年間約200件の相談業務を担当。

○2011年4月から2年間、宮城県気仙沼市で、災害ボランティアセンター運営支援やNPO、行政、地域の連携支援。

○龍谷大学社会学部「市民活動論」非常勤講師。JVCAボランティアコーディネーション力検定1級合格。

○共著『テキスト市民活動論』など。夢はNPOや行政などに、質の高い市民参加が増えること。

About Us；大阪ボランティア協会とは？

〇日本で最も歴史の長い民間の市民活動推進機関。

〇年間約1000人に、ボランティア活動の機会を提供。また年間約200件のボランティア依頼に応じる。

〇年間500件以上のNPO設立・運営相談、企業や行政とのコーディネーション。

〇協会は、徹底的に【市民参加】にこだわっています。ボランティア約140人と職員約10人で協働して事業展開しています。

1. 活動・事業が
活性化している状態
をめざして、今、できること

Kozue Okamura , All Rights Reserved

NPOが抱える課題のあれこれ

①慢性的な資金不足（会費、寄付金、助成金…）

②人的課題（ボランティア、人間関係のこじれ）

③活動場所の確保（物理的場所、コミュニティ）

④広報の課題（イメージ、認知度の低さ、新しいメディアへの対応）

⑤異なる組織との連携（企業、行政、地域…）

など

Kozue Okamura , All Rights Reserved

日々の活動・事業をふりかえろう！

あなたの活動は活性化していますか？

- 私たちの活動・事業をふりかえってみましょう。
- 活動の“活性化”って一体何でしょう。
  活性化とは、［名］(スル) 1 特定の機能が活発になること。反応性が高まること。2 組織などの活動を活発にすること。「地域社会を―する」
  (ウェブ「大辞泉」より)
- 思わず“人に薦めたくなる魅力”、ありますか？

↓ たとえば、

◎誰かの役に立つ、誇りをもてる内容ですか？

◎参加したくなるような、わくわくする内容ですか？

◎参加をすれば、気づきや学びのある内容ですか？

◎参加をすれば、人と人のつながりは広がりますか？

Kozue Okamura , All Rights Reserved

評価とは、計画ー実行の差異

●計画（将来像）と実行（現状）の差異を確認し、なぜそのようなことになったのかの原因を明確にして、そうならない手を考え、次の計画にその評価結果を反映すること。

↓

市民活動のマネジメントでは、
「変化に適切に対応すること」が大切

Kozue Okamura , All Rights Reserved

KPTの視点

①Keep（ 日頃から続けておきたいこと）

②Probrem（気になること、課題に思うこと）

③Try（チャレンジしたいこと）

④次回のプロジェクト目標（洗いだした項目を解決or実現するために、次回に何をするか）

Kozue Okamura , All Rights Reserved

社会福祉法人
大阪ボランティア協会

日々の活動・事業をふりかえろう！
理念に基づき自己評価の指標を考える

たとえば、大阪ボランティア協会（大ボラ協）の場合、各5点で評価

① 社会にとって必要な事業だ! 【対外的必然性】
② 大ボラ協にとって必要な事業だ! 【対内的必然性】
③ 他に代わるものがない! 【非代替性・先駆性】
④ 新しい価値を提示できている! 【変革性】
⑤ いつか大バケする! 【投資性】
⑥ 多様な人を巻き込んでいる! 【運営参加性】
⑦ 外部に響くことをしている! 【外部共感性】
⑧ 人育てに貢献している! 【人育て性】
⑨ 単体ではできないことに貢献している! 【連携性】
⑩ 稼ぐことに貢献している! 【収益性】
⑪「ときめき感」や「わくわく感」がむっちゃある！【ときめき性】

Kozue Okamura , All Rights Reserved

2. 押さえておこう
～意味と性質

Kozue Okamura , All Rights Reserved

■ボランティアとは①
～語源とキー概念を押さえよう

☑Volunteer（ボランティア）の語源は、
volunte＋er（人を示す接尾語）で、
voluntas（ウォルンタ～ス・ラテン語・自由意思）
つまり、「志の人・したくてする人」のこと。

☑キー概念は、
①自発性→やる気（放っておけない、我慢できない）
②社会性・公益性→世直し
（「私」が「社会」に関わるとは!?）
③無償性→手弁当（「無償」の意味は!?）

Kozue Okamura , All Rights Reserved

ボランティアとは②
～強みと弱みを押さえよう

●強み
- 無償性：金銭的対価を超えた活動の展開
- 機動性
- 個別対応の容易さ、温かさ、柔軟性
- 多彩さ
- 主体的に参加すると、状況から逃げない

●弱み
- 自発性は揮発性
- 全体が見えないままに動く（動ける）
- 好きなことしかしない
- 自発性パラドックス

（パラドックス＝逆説。自分で進んでとった行動の結果として自分自身が苦しい立場に立たされること）

Kozue Okamura , All Rights Reserved

グループ・組織にかかわることのメリット

◆仲間が増える　◆情報を得られる　◆学べる
◆自分も助けてもらえる
◆相互に補完し合える
◆一人ではできなかったことにチャレンジできる
◆喜びを分かち合える

桑原英文　研修資料「健康的なグループ運営のために」より

Kozue Okamura , All Rights Reserved

グループ・組織運営の葛藤

- 「ボランティア」は、「私」の関心やこだわりで自由に進められるはずの活動だったものが、
- 「グループ」に参加することによって、「他者」の関心やこだわり、ペースと折り合いをつけなくてはならない

⇒活動への「個々の自由な参加」と活動を展開するための「グループ運営や維持」との間の葛藤がある

桑原英文　研修資料「健康的なグループ運営のために」より

Kozue Okamura , All Rights Reserved

3. 活動・事業をもっと元気に楽しく、活性化する手がかり

Kozue Okamura , All Rights Reserved

■「ミッション（目的･使命）」

に関する症状と処方箋のヒント

05. 何のための活動かわからなくなる時がある
06. 活動がマンネリ化していると感じる時がある
08. 活動に来るメンバーが少ない
10. どんな活動をしたら良いか迷っている
18. 活動に対する考え方がバラバラで困る

Kozue Okamura , All Rights Reserved

ミッション（目的・使命）」と手段

＜現状＞

誰の
どんな
状態

＜将来＞

誰の
どんな
状態
をどうしたいのか？

そのために何をするのか

Kozue Okamura , All Rights Reserved

「ミッション（目的・使命）」と手段

○ミッション：実現させたいこと

○ビジョン：ミッションを実現するためにめざすべき方向

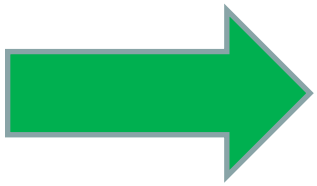
○手段：どうやって実現するのか

Kozue Okamura , All Rights Reserved

■「人材開発・トレーニング」

に関する症状と処方箋のヒント

01. 新しいメンバーがはいってこない
02. 入ってくるが、定着しにくい
03. メンバーがだんだん少なくなっている
04. 活動の技術や知識が深まりにくい
26. 役割分担がうまくいっていないと感じる



「成長する組織」として
見直す時期かもしれません

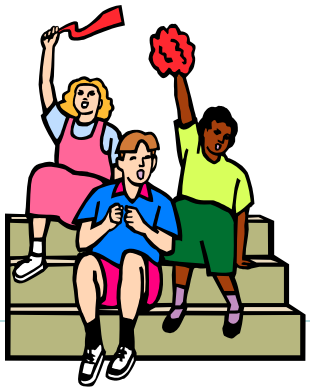
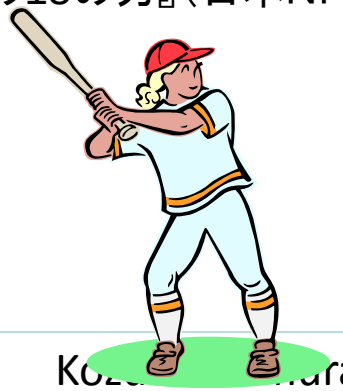
Kozue Okamura , All Rights Reserved

それぞれが自分の役割を果たす

例）NPOの立場をプロスポーツに例えると…

NPO	会長	理事	支援者	事務局長	スタッフ・ボランティア
プロスポーツ	サポーター	経営者	スポンサー	監督	プレイヤー
主な役割	成果を期待し応援	方針と人事を決定	資金援助、資源提供	組織編制・戦術を決定	役割を担いチームに貢献

『NPOリーダーのための15の力』（日本NPOセンター発行）より横田能洋さん資料より岡村一部加筆

Kozaburo Okamura , All Rights Reserved

よいチームを育て上げるには…①

・理事は、現場の課題を理解し、事務局長を支援し必要な資源を用意する。

・理事は、社会の状況変化や他団体の動向を把握し、組織の方向性を定める。

・会員（理事含む）は現場のスタッフを励まし、関われる部分で参画する。

『NPOリーダーのための15の力』（日本NPOセンター発行）より横田能洋さん資料より

Kozue Okamura , All Rights Reserved

よいチームを育て上げるには…②

・スタッフは、よい仕事をして会員の期待に応え、ファンサービスをする。

・スタッフは、現場と理事が協力して成果を上げ、会員や支援者を集める努力をする。

・スタッフ等は、現状や課題を抱え込まずに周りに伝え、協力して問題解決に取り組む。

・事務局長は、スタッフの悩みや調子を見て、各自の役割や成果目標を定め、チームとして優先して取り組むことや行わないことを決める。

『NPOリーダーのための15の力』（日本NPOセンター発行）より横田能洋さん資料より

Kozue Okamura , All Rights Reserved

Off・JT（オフ・ザ・ジョブ・トレーニング）

〇1つの団体から複数人数、研修に参加すること。

〇参加の目的を明確にすること。

「なぜ、あなたにこの研修に受講してもらうのか」

〇研修から戻ったら、感想や学んだこと、今後に向けた行動などを発表する機会を設ける。

〇提案があったら、組織運営の改善につなげること。

Kozue Okamura , All Rights Reserved

SD（セルフ・ディベロップメント）

〇人は、自分が興味を持ったことは、自ら学ぶ。

〇メンバーの「自ら学びたい」という意欲が高まる環境をつくる。

・目的・ビジョン・成果を客観的に評価する。

・成果をメンバーや社会にアピールする。

⇒メンバーの活動に対する自信と誇りを深める

〇メンバーの状況に合わせた学びを深める情報提供をする。

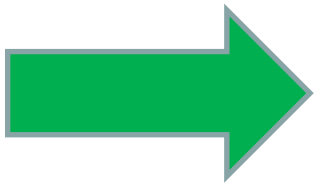
〇日頃の学習習慣をメンバーに促す。

Kozue Okamura , All Rights Reserved

■「コミュニケーション」

に関する症状と処方箋のヒント

17. グループ・団体内で連絡がうまくいかない時がある
19. メンバーの中で派閥ができて困っている
20. メンバー同士あまり会話がない
21. 自分の意見を言いにくい
22. 全体のことを話すミーティングがない
25. 活動中困った時、相談する相手がいない



コミュニケーションに
問題ありかもしれません

Kozue Okamura , All Rights Reserved

アサーティブな態度を身につけよう！

■アサーティブな姿勢とは？

誠実・率直・対等な立場で自分の意見や気持ちを分かりやすく伝えること。1960年代、主に米国で取り組まれた自己主張のための訓練。

キーワード：
「対等」「率直」「誠実」「自己責任」

（特定非営利活動法人ASK編集、ウェブサイト「ライフスキルのページ＜自分らしく生きるための道具箱＞」より）http://www.ask.or.jp/lifeskill/

Kozue Okamura , All Rights Reserved

アサーティブなコミュニケーションのポイント

1. 気持ちをまっすぐに伝える
2. ほめられ上手になる
3. 人に率直に頼む
4. きっぱりとNOを言う
5. 批判をうまく受け止める
6. 自分の怒りの取扱説明書をもつ
7. 話し合う、交渉する

（特定非営利活動法人ASK編集、ウェブサイト「ライフスキルのページ＜自分らしく生きるための道具箱＞」より）

Kozue Okamura , All Rights Reserved

コミュニケーションで問題があったら

①話をする場を設定する
②話し合いの意味と、どうしたいかを伝える
③問題となったできごとについて話す
④感想を話し、問題点を伝える
⑤問題についてすべての情報を探る
⑥確認する
⑦両者が満足できる解決策を探る
⑧公平な約束をする
⑨約束を確認する
⑩まとめる

※どうしても解決できない問題も、時にはあります

出典 「国際交流ボランティアをマネージメントする77のポイントPart1」P53「36. このトラブル、どうすれば解決できる？」より （(財)愛知県国際交流協会発行）

Kozue Okamura , All Rights Reserved

事例：D×Pのプログラムの特徴②

■プログラム自体は3ヶ月に4回の授業（土日開催）
→無理なく通える授業に
■最大クラスは10人程度に対してコンポーザーは5人
→小規模クラス
■1回の授業は150分　→時間が長くても満足度100%!!

毎回のプログラムの流れ

アイスブレイク（30～1時間）　　授業（1時間）　　相談時間（1時間）

自己紹介や最近の情報をお互いに交換

授業のテーマは失敗や挫折体験、大学生活、仕事etc

今井紀明さんレジュメより（2013年6月28日）

事例:D×Pのプログラムの特長

①事業の趣旨が明確に伝わる。

②ボランティアとしてかかわったら、自分がどのように貢献できるのかが分かりやすい。

③参加者のターゲッティングが明確。

④生徒の成長という「成果を可視化」する努力。

⑤価値観を提示して、共感できるメンバーが集いやすい。

Kozue Okamura , All Rights Reserved

事例：自転車文化タウンづくりの会

ウェブサイト「自転車文化タウンづくりの会」より

Kozue Okamura , All Rights Reserved

事例：自転車文化タウンづくりのプログラムの特長

①「御堂筋に自転車レーンを！」「ちゃんと走ろう」というコンセプトの明確さ。

②「楽しそう！」が明確に伝わる。

③さまざまな参加の形態が準備されている。

（企画、準備、設営、休憩所、参加者、勉強会…）

④大人数で大きなインパクト。

（アピール走行300人、参加者600人、ボランティア75人、協賛企業9社、出展企業18社など）

Kozue Okamura , All Rights Reserved

■「リーダーシップ」

に関する症状と処方箋のヒント

26. 役割分担がうまくいっていないと感じる
27. ここ何年かリーダーの交代をしていない
28. 実はリーダーを決めていない
29. リーダーの交代なんてできないだろう

いま組織に必要な
リーダーシップとは何かを
考える時期かもしれません

Kozue Okamura , All Rights Reserved

「リーダーシップ」とは何か？（1）

〇コミュニケーションの手段を通じて発揮される対人間の影響力。

〇やらせることではなく、やりたくなるように人々を仕向けていく力。

リーダーシップとは……
すべての人が発揮する「周囲への影響力」

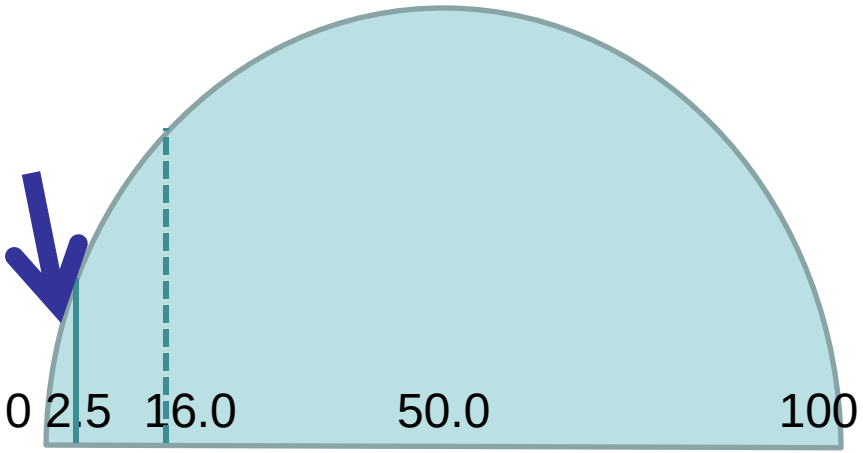
松本修一『新・共感のマネジメント』（大阪ボランティア協会）より

Kozue Okamura , All Rights Reserved

イノベーターの宿命と可能性

～地域・社会を変えたい人々の「存在と力」を信じる

イノベーターの位置



イノベーション採用時期

※農村社会学者のロジャースによると…

イノベーター
2.5% ・・・変えようとする人

アーリー・アダプター（初期採用者）
13.5% ・・・のりやすい人

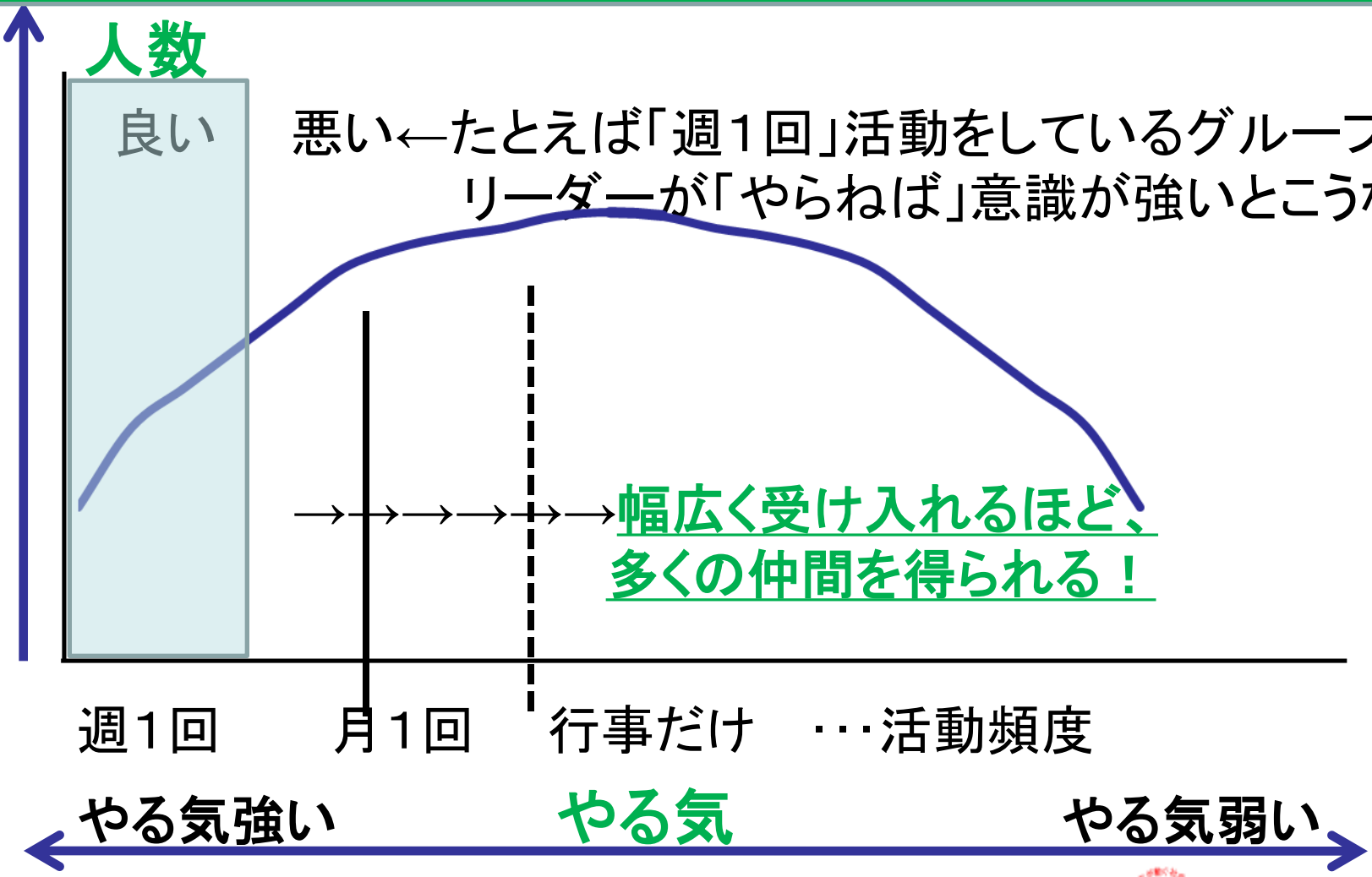
アーリー・マジョリティ（前期大衆）
34.0% ・・・見殺しにするわけには・・・

レイト・マジョリティ（後期大衆）
34.0% ・・・勘の鈍い人

ラガード（採用遅滞者）
16.0% ・・・まったくあてにならない

Kozue Okamura , All Rights Reserved

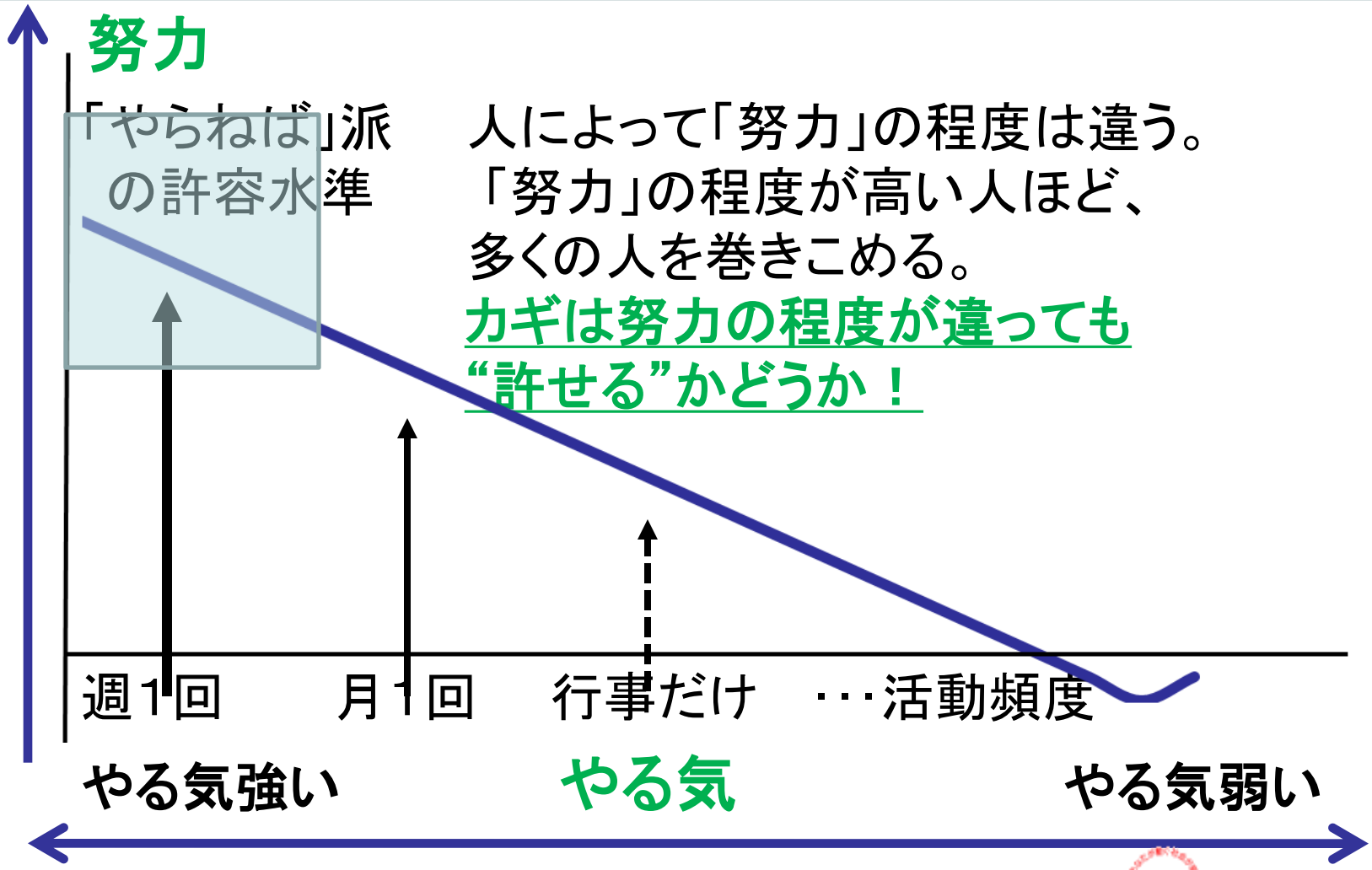
参加をうながすツボ①
「やる気」と「人数」の関係



Kozue Okamura , All Rights Reserved

社会福祉法人
大阪ボランティア協会

参加をうながすツボ②
「やる気」と「努力」の関係



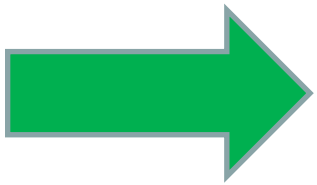
Kozue Okamura , All Rights Reserved

社会福祉法人
大阪ボランティア協会

■「活動の社会化」

に関する症状と処方箋のヒント

01. 新しいメンバーがはいってこない
07. 自分たちの活動がなかなか認められない
09. 活動の対象者が集りにくい
14. 活動の資金に困っている
15. 活動の場所に困っている
24. 活動に関する情報が集りにくい



活動の真の魅力が伝わっていないかもしれません

Kozue Okamura , All Rights Reserved

伝えるプロセス

①伝える相手を思いうかべる

②伝えたいことを明確にする

③伝えた後、相手にどのような行動をしてもらいたいか想像する

④どのような資料があれば相手の心が動くか、考えてデータ収集する

⑤相手の心に届く伝え方を考える

⑥伝える

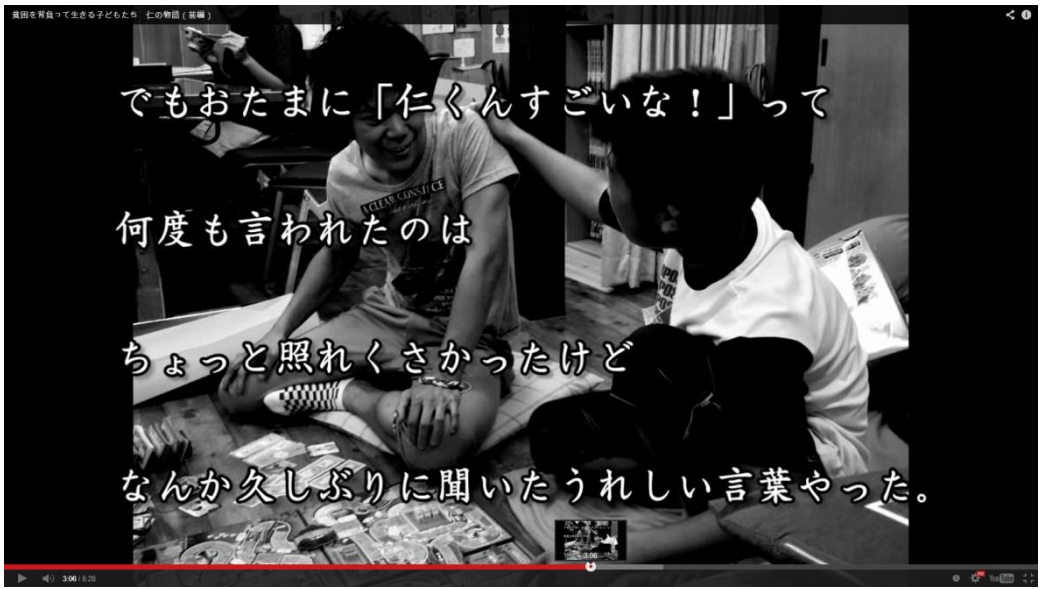
⑦伝わったかどうか、相手に確認する

⑧伝わっていなければ補足する

Kozue Okamura , All Rights Reserved

事例：山科醍醐こどものひろば

★【事例】NPO法人山科醍醐こどものひろば
「貧困を背負って生きる子どもたち　仁の物語」より



Kozue Okamura , All Rights Reserved

山科醍醐こどものひろばの
プログラムの特長

①「こどもを支える」ということを、具体的にイメージできる工夫。

②ボランティアとしてかかわったら、どう生き生きできるかがイメージできる。

③ボランティア同士が、経験や学びを披露し合うサロン

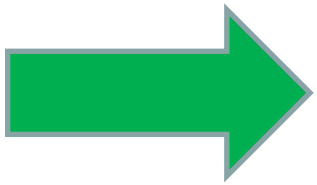
④メディアやオピニオンの発信を通じて、課題の社会化に尽力。

Kozue Okamura , All Rights Reserved

■「活動基盤の整備」

に関する症状と処方箋のヒント

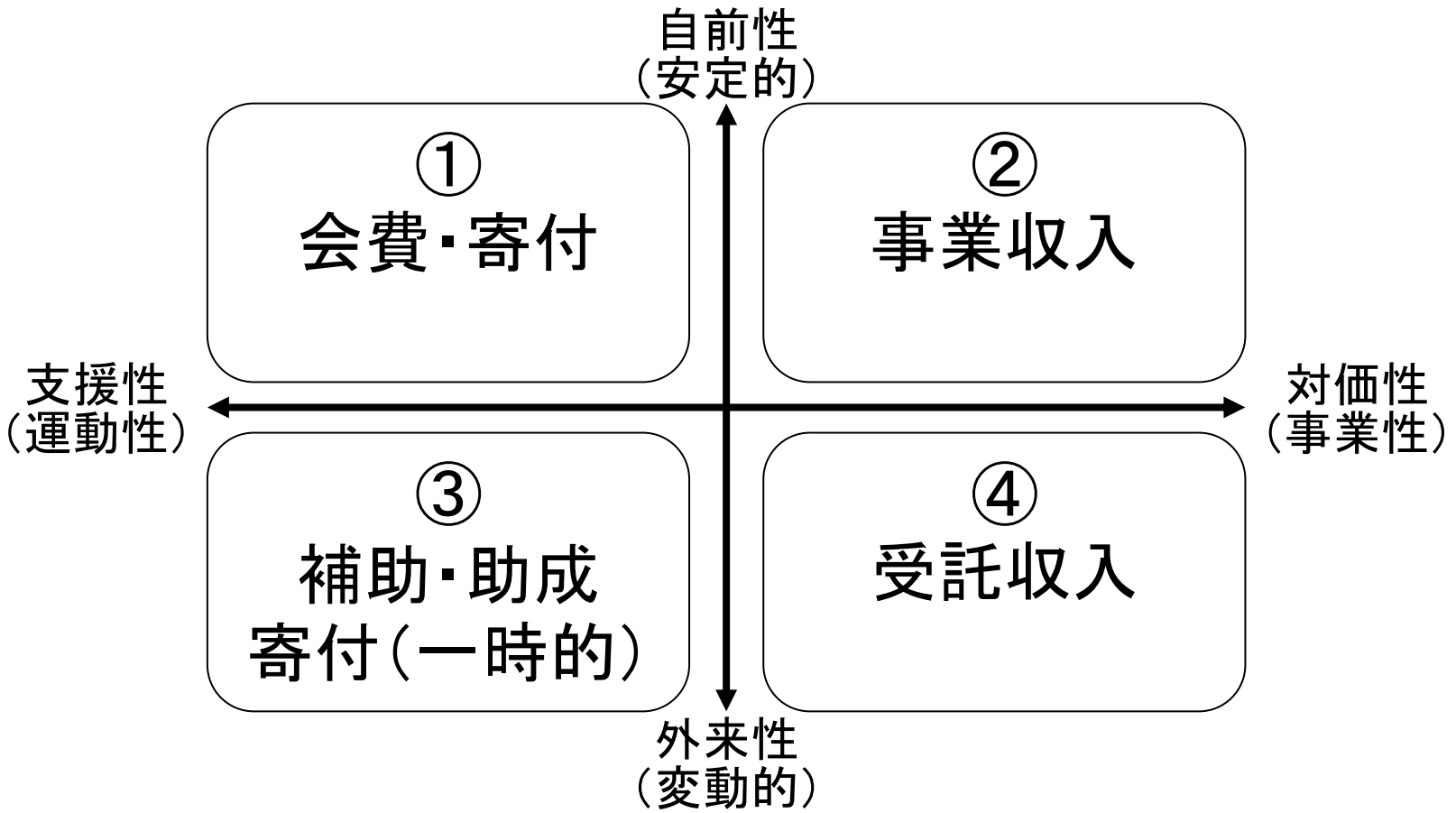
14. 活動の資金に困っている
15. 活動の場所に困っている
16. 事故が起こりそうで不安な時がある
23. ミーティングの参加者が少ない



組織の土台を
見直す時期かもしれません

Kozue Okamura , All Rights Reserved

活動にはお金も大事、財源構成は4区分



出典『知っておきたいNPOのこと2資金編』（日本NPOセンター・まちづくり情報センターかながわ編集・発行）

Kozue Okamura , All Rights Reserved

活動・事業で、燃え尽きないために

①燃え尽きないために

☑発想を変える

☑視野を広げる

☑理解者の確保

②燃え尽きから守るために

☑目標設定の適正化

☑役割分担を固定しない

☑マンパワー、支援者確保

Kozue Okamura , All Rights Reserved

ボランティア活動をもっと元気に楽しく、活性化するヒント

●「ボランティアグループの運営」、5の心得

①どれだけ“役割を分散しているか”

②どれだけ“書き言葉を活用しているか”

③どれだけ“まき込みをしているか”

④どれだけ“遊びがあるか”

⑤どれだけ“社会の変化に対応しているか”

Kozue Okamura , All Rights Reserved

ありがとうございました。

社会福祉法人　大阪ボランティア協会とは？

ボランティア、NPO、企業を支えるコーディネーション機関です。

・代表者：牧里毎治　　・設立：1965年11月7日　　・電話：06-6809-4901

・住所：大阪市中央区谷町二丁目2-20　2F
　　市民活動スクエア「CANVAS（キャンバス）谷町」

・事業収入規模：約7千万円

・主な事業構成

1. ボランティアコーディネーション事業
2. ボランティア、NPO向け研修事業
3. NPO等の団体運営支援
4. 「CANVAS谷町」拠点運営事業
5. 企業市民活動推進センター事業
6. 情報提供・研究・出版事業　　など

・個人会員約650名、団体賛助会員約70団体

・ボランティア約140人、職員約10人

社会福祉法人
大阪ボランティア協会